

第8条 嫌気性菌研究分野の放射性同位元素実験施設に総括管理者を置き、センターの専任の教育職員をもって充てる。ただし、適任者が得られないときには、センター以外の教育職員をもって充てることができる。

2 総括管理者は、センター長の命を受け、放射性同位元素実験施設における放射性同位元素の管理等の業務を総括し、及び整理する。

(教授会)

第9条 センターに、生命科学総合研究支援センター教授会（以下「センター教授会」という。）を置く。

2 センター教授会に関し必要な事項は、別に定める。

(運営委員会)

第10条 センターに、センターの共同利用に関する事項、センター長から諮問された事項等を審議するため、生命科学総合研究支援センター運営委員会（以下「運営委員会」という。）を置く。

2 運営委員会に関し必要な事項は、別に定める。

(機器分析分野協力員)

第11条 機器分析分野に、当該分野の業務に協力し、利用及び分析技術の研究、開発等を行うため、機器分析分野協力員を置くことができる。

2 機器分析分野協力員は、本学の専任の教育職員をもって充てる。

3 前項に規定するもののほか、機器分析分野協力員に関し必要な事項は、別に定める。

(庶務)

第12条 センターに関する庶務は、学術国際部研究支援課において処理する。

(雑則)

第13条 この規程に定めるもののほか、センターに関し必要な事項は別に定める。

附 則

1 この規程は、平成19年10月1日から施行する。

2 岐阜大学生命科学総合研究支援センター規則（平成16年岐阜大学規則第158号）は、廃止する。

附 則

この規程は、平成21年5月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成22年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成25年4月1日から施行する。

# 岐阜大学生命科学総合研究支援センター規程

平成19年10月1日  
規程第64号

(趣旨)

第1条 この規程は、岐阜大学学則第13条第2項の規定に基づき、生命科学総合研究支援センター(以下「センター」という。)に関し必要な事項を定めるものとする。

(目的)

第2条 センターは、国立大学法人岐阜大学(以下「本学」という。)の共同教育研究基盤施設として、生命科学に関連する先進的分野の教育研究を行うとともに放射性同位元素、実験動物、大型分析機器等の適切な管理を行うことにより、本学における生命科学分野の教育研究の総合的推進を図ることを目的とする。

(組織)

第3条 センターに次の表の左欄に掲げる分野を置き、同表の右欄に掲げる業務を行う。

分 野	所 掌 業 務
ゲノム研究分野	一 ゲノム等生命科学分野における研究 二 生命科学分野の研究基盤整備及び技術指導 三 その他ゲノム研究に関すること。
嫌気性菌研究分野	一 嫌気性菌感染症及び嫌気性菌症の診断、病因、治療、予防等に関する基礎的・臨床細菌学的研究 二 偏性嫌気性菌を中心とした遺伝資源の系統保存 三 放射性同位元素の管理及び放射性同位元素を用いた教育研究の支援 四 その他嫌気性菌実験に関すること。
動物実験分野	一 動物実験モデル及び実験用動物の開発研究 二 実験動物の飼育管理及び実験動物を用いた教育研究の支援 三 その他動物実験に関すること。
機器分析分野	一 ナノスケールにおける新規分析技術の開発研究 二 生体試料及び機能性化合物の分子構造解析に関する研究支援 三 分析機器の維持管理及び分析技術の指導 四 その他機器分析に関すること。

(職員)

第4条 センターに次の職員を置く。

- 一 センター長
- 二 専任の教育職員
- 三 その他の職員

(センター長の職務)

第5条 センター長は、センターの業務を掌理する。

(センター長等の選考)

第6条 センター長及びセンターの専任の教育職員の選考については、別に定める。

(分野長)

第7条 各分野に分野長を置き、当該分野の専任の教授、准教授又は講師をもって充てる。

2 分野長は、センター長の命を受け、当該分野における業務(嫌気性菌研究分野長にあっては、放射性同位元素の管理等に関する業務を除く。)を総括し、及び整理する。

(放射性同位元素実験施設総括管理者)

# 岐阜大学 公開講座

～先端科学を知ろう～

最先端の研究がどのように私たちの日常生活に活かされてゆくか、  
岐阜大学の研究者が分かりやすくお話しします。

**日時** 平成24年12月1日(土) 13:00～16:30

**会場** ゲノム研究棟2階セミナー室 **定員** 30名

**参加費** 無料 (11月16日(金)までにお申込み下さい。) **対象者** 学生、一般市民

## プログラム

### 講演 1

メダカに学ぶ  
私達のからだ

ゲノム研究分野  
高島 茂雄

### 講演 2

酸素が嫌いな  
菌の話

嫌気性菌研究分野  
田中 香お里

### 講演 3

やせる脂肪、  
褐色脂肪組織の話

動物実験分野  
二上 英樹

### 講演 4

食品の  
内部構造と物性

応用生物科学部  
西津 貴久

閉講式・  
修了証の授与

生命科学総合研究支援  
センター長  
下澤 伸行

主催：岐阜大学生命科学総合研究支援センター

**申込方法** 電話・FAX・Eメールにて、住所・氏名・年齢・連絡先・当日利用する来校方法をお伝えください。

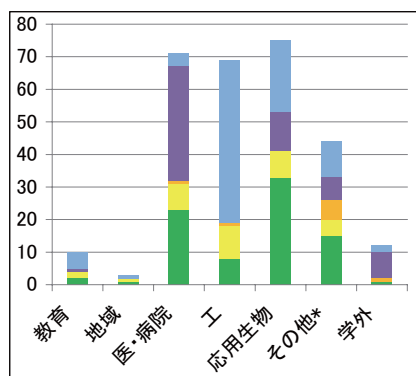
**申込・問い合わせ先** 岐阜市柳戸1-1 岐阜大学学術国際部研究支援課 TEL:058-293-2014 FAX:058-293-3209 E-mail:gjai04004@jim.gifu-u.ac.jp

# 生命科学総合研究支援センター 平成24年度支援状況

平成24年度登録グループ数

	教育	地域	医・病院	工	応用生物	その他*	学外
ゲノム研究分野	2	1	23	8	33	15	1
放射線同位元素管理室	2	1	8	10	8	5	0
嫌気性菌研究分野	0	0	1	1	0	6	1
動物実験分野	1	0	35	0	12	7	8
機器分析分野	5	1	4	50	22	11	2

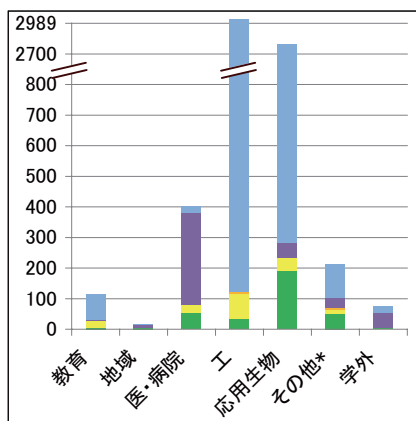
\*その他:生命セ、流域、情報メディア、連合創薬、連合農薬など  
放射線同位元素管理室は、柳戸施設と医学施設との合計であり重複有り  
機器分析分野は、柳戸施設と医学施設との合計であり重複有り



平成24年度登録者数

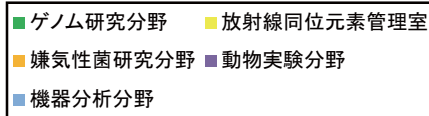
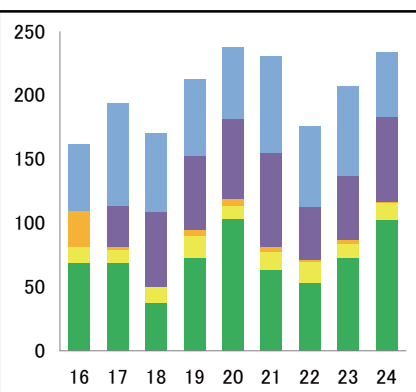
	教育	地域	医・病院	工	応用生物	その他*	学外
ゲノム研究分野	4	4	55	36	193	50	3
放射線同位元素管理室	23	1	24	80	40	13	2
嫌気性菌研究分野	0	0	1	5	0	8	1
動物実験分野	5	9	300	0	48	31	49
機器分析分野	83	2	23	2989	650	110	20

\*その他:生命セ、流域、情報メディア、連合創薬、連合農薬など  
放射線同位元素管理室は、柳戸施設と医学施設との合計であり重複有り  
嫌気性菌研究分野は支援件数の総計であり重複有り  
機器分析分野は、装置ごとの登録者数の総計および柳戸施設と医学施設との合計であり重複有り



センターを利用して発表された論文(研究支援論文)数推移

	年度									
	16	17	18	19	20	21	22	23	24	
ゲノム研究分野	69	69	38	73	103	63	53	73	103	
放射線同位元素管理室	12	10	12	17	11	15	17	11	13	
嫌気性菌研究分野	29	2	0	5	5	4	1	3	1	
動物実験分野	0	33	59	58	63	73	42	50	66	
機器分析分野	52	80	62	60	56	76	63	70	51	



# 平成24年度活動状況報告

## 生命科学総合研究支援センター教授会

### 第101回生命科学総合研究支援センター教授会

平成24年4月23日（月）

- 議題 (1) 機種選定委員会委員について  
(2) 貢献度実績・自己点検評価に係るガイドライン及び部局項目について  
(3) 資産の除却に関する申し合わせの作成について  
(4) その他

### 第102回生命科学総合研究支援センター教授会

平成24年5月23日（水）

- 議題 (1) 若手研究支援経費について  
(2) 平成24年度公開講座について  
(3) 女性教員の数値目標について  
(4) その他

### 第103回生命科学総合研究支援センター教授会

平成24年6月27日（水）

- 議題 (1) 予算配分等に関する申し合わせについて  
(2) 研究生の受入について  
(3) その他

### 第104回生命科学総合研究支援センター教授会

平成24年7月25日（水）

- 議題 (1) 電子ジャーナル購入経費の負担方法について  
(2) 寄附金の受入について  
(3) RI管理室の体制について  
(4) その他

### 第105回生命科学総合研究支援センター教授会

平成24年9月26日（水）

- 議題 (1) 奨学寄附金の受入について  
(2) 受託研究の変更の受入について  
(3) その他

### 第106回生命科学総合研究支援センター教授会

平成24年10月31日（水）

- 議題 (1) 寄附物品等の受入について  
(2) その他

### 第107回生命科学総合研究支援センター教授会

平成24年11月28日（水）

- 議題 (1) その他

## 第108回生命科学総合研究支援センター教授会

平成24年12月26日（水）

- 議題 (1) 寄附金の受入について  
(2) 嫌気性菌研究分野の教員選考について  
(3) その他

## 第109回生命科学総合研究支援センター教授会

平成25年1月23日（水）

- 議題 (1) 平成25年度公開講座実施計画について  
(2) 名誉教授の選考について  
(3) その他

## 第110回生命科学総合研究支援センター教授会

平成25年2月27日（水）

- 議題 (1) 寄附金の受入について  
(2) 組織改変による施設名称変更に伴う規程の一部改正について  
(3) 平成25年度生命科学総合研究支援センター委員会委員について  
(4) 平成25年度分野担当について  
(5) 助教の採用について  
(6) その他

## 第111回生命科学総合研究支援センター教授会

（持ち回り）

平成25年3月19日（火）

- 議題 (1) 平成24年度「組織目標の達成状況報告書」について

## 第112回生命科学総合研究支援センター教授会

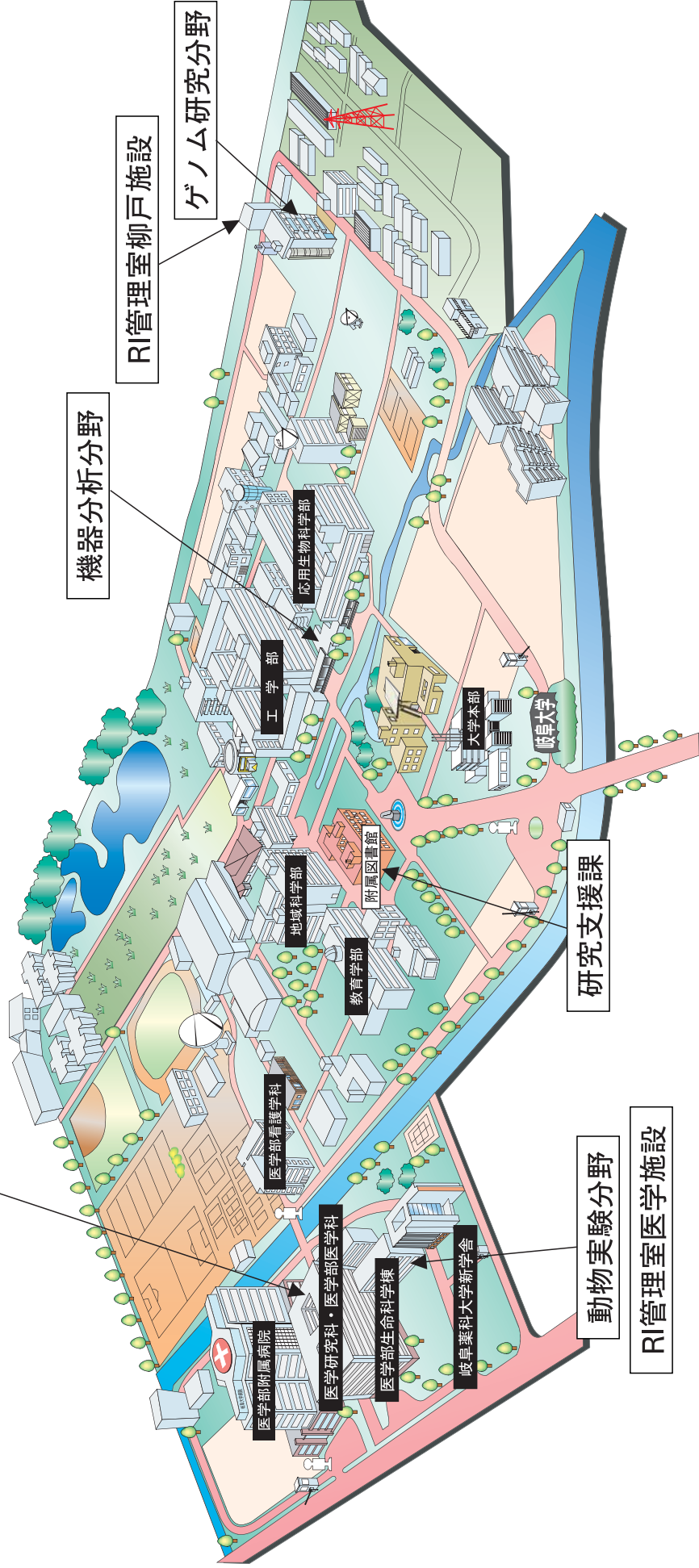
平成25年3月27日（水）

- 議題 (1) 平成25年度組織目標の作成について  
(2) その他

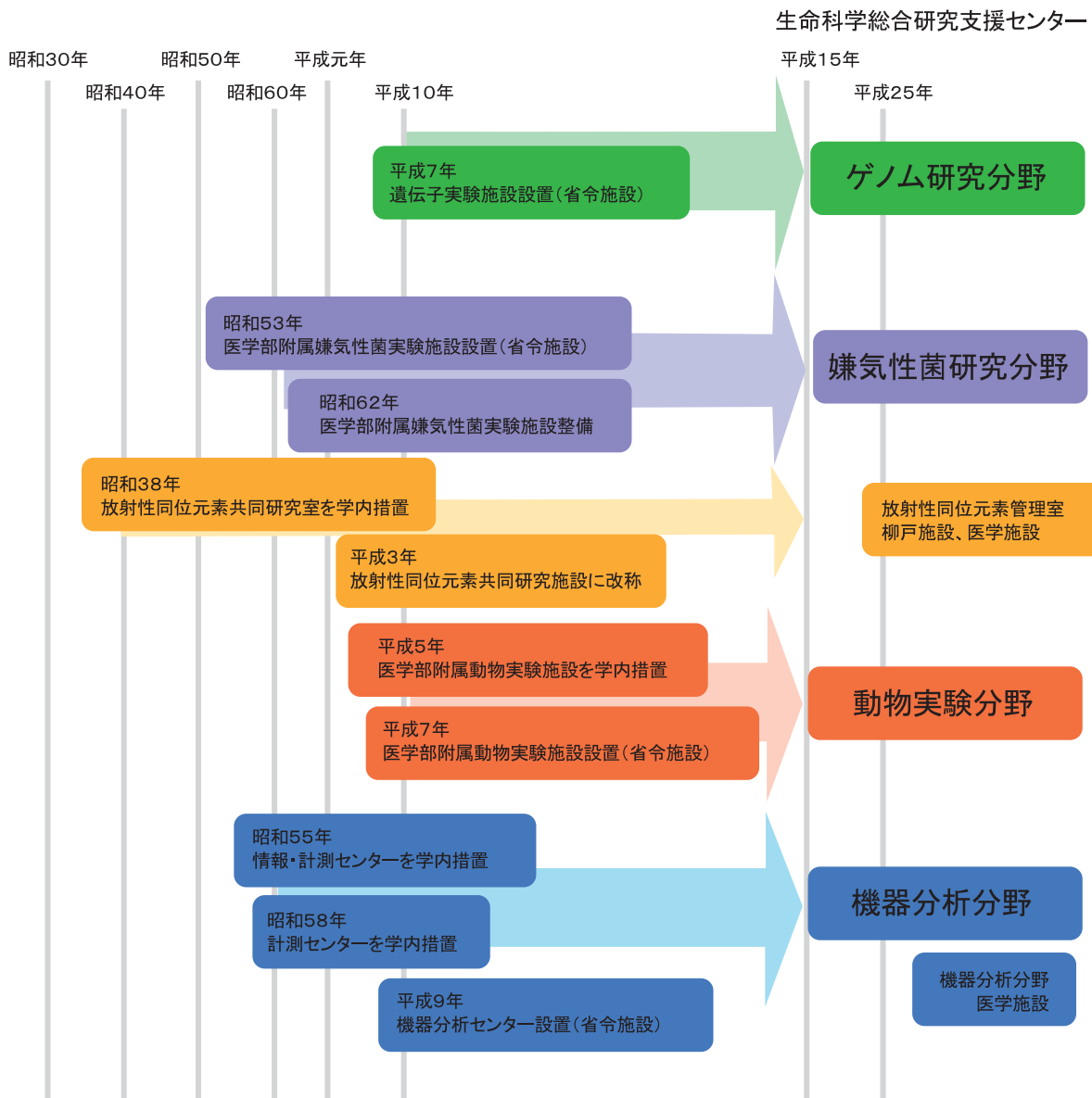
# 生命科学総合研究支援センター各分野所在地

嫌気性菌研究分野

機器分析分野医学施設



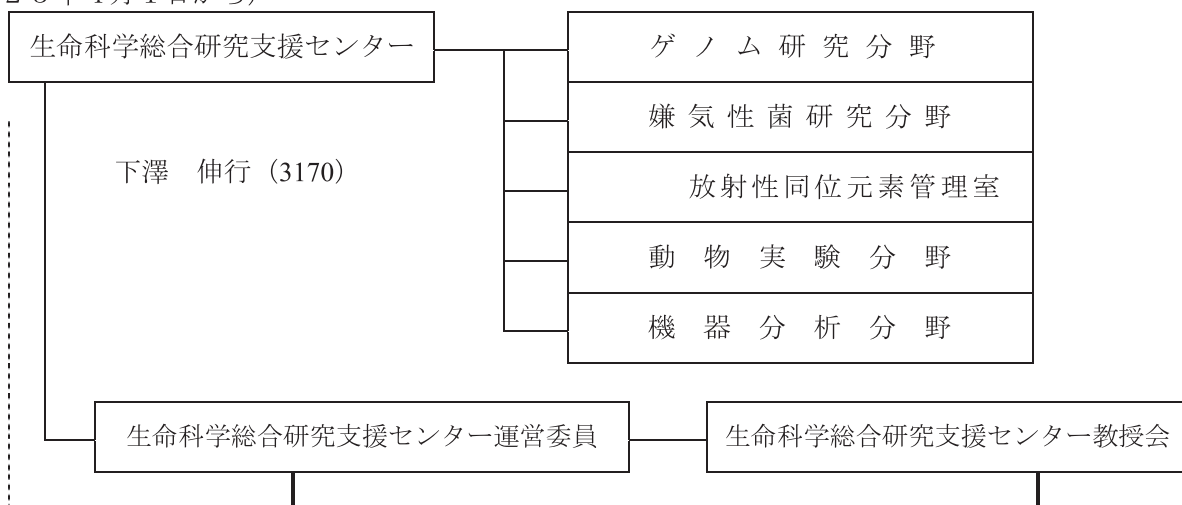
# 生命科学総合研究支援センター沿革



- 平成15年
- 生命科学総合実験センター設置
  - ゲノム研究分野、嫌気性菌実験分野、動物実験分野、機器分析分野の4分野を設置
  - 放射性同位元素共同研究施設と遺伝子実験施設を統合しゲノム研究分野へ
  - 初代センター長に渡邊邦友教授が就任
- 平成17年
- 生命科学総合研究支援センターへ改称
  - 嫌気性菌実験分野を嫌気性菌研究分野へ改称
  - ゲノム研究分野放射性同位元素管理室に改称し、柳戸施設と医学施設の2施設稼働
- 平成18年
- 2代センター長に下澤伸行教授が就任
- 平成22年
- 3代センター長に渡邊邦友教授が就任
- 平成23年
- 機器分析分野医学施設稼働
- 平成24年
- 4代センター長に下澤伸行教授が就任
- 平成25年
- 放射性同位元素管理室に改称し、担当をゲノム研究分野から嫌気性菌研究分野へ変更

# センター組織図 ( ) 内は内線番号

## センター組織図 ( ) 内は内線番号 (平成25年4月1日から)



区	分	平成25年度運営委員 [任期]	平成25年度教授会員
生命科学総合研究支援センター長 (委員長)		下澤 伸行 (3170)	下澤 伸行 (3170)
教育学部		古屋 康則 (2255) [H24.4.1~H26.3.31]	
地域科学部		向井 貴彦 (3027) [H24.4.1~H26.3.31]	
医学系研究科・医学部		湊口 信也 (6520) [H24.4.1~H26.3.31]	
医学部附属病院		岩田 尚 (6323) [H24.4.1~H26.3.31]	
工学部		杳水 祥一 (2573) [H25.4.1~H26.3.31]	
応用生物科学部		長岡 利 (2931) [H24.4.1~H26.3.31]	
生命科学総合研究支援センター	ゲノム研究分野 RI管理室総括管理者	下澤 伸行 (3170)	下澤 伸行 (3170) 須賀 晴久 (3173) 高島 茂雄 (3174)
	嫌気性菌研究分野	田中香お里 (6552)	田中香お里 (6552) 後藤 隆次 (6553) 林 将大 (6554)
	動物実験分野	二上 英樹 (6609)	二上 英樹 (6609) 平田 暁大 (6610)
	機器分析分野	近江 靖則 (2037)	近江 靖則 (2037) 鎌足 雄司 (6151) 犬塚 俊康 (6152)

学術国際部  
研究支援課

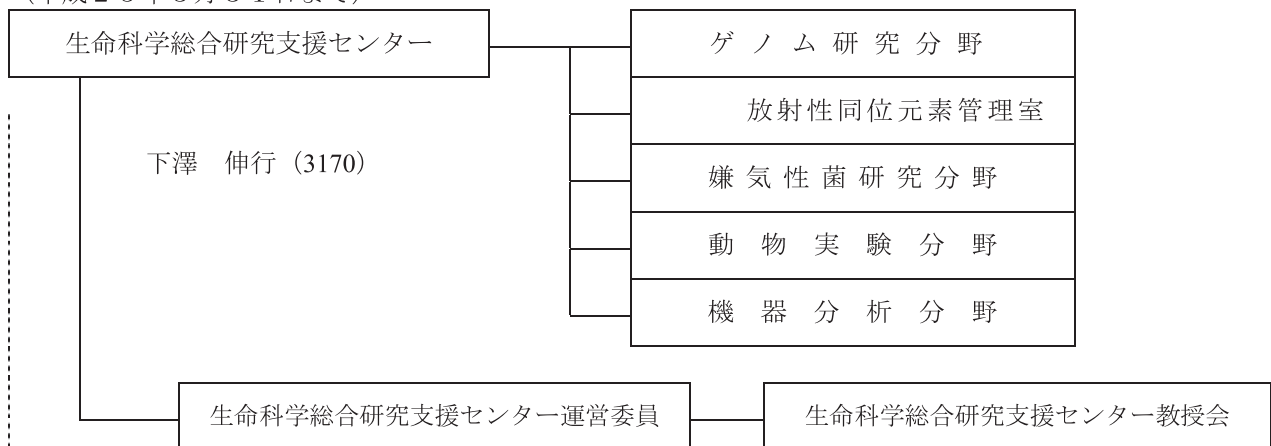
課長  
課長補佐  
研究施設係長  
研究施設係

山口 昇 (3347)  
堤 富士夫 (3344)  
西村 達也 (3352)  
増田 優 (2014)  
杉山 純子 (9693)



# センター組織図 ( ) 内は内線番号

## センター組織図 ( ) 内は内線番号 (平成25年3月31日まで)



区 分		平成24年度運営委員 [任期]	平成24年度教授会員
生命科学総合研究支援センター長 (委員長)		下澤 伸行 (3170)	下澤 伸行 (3170)
教育学部		古屋 康則 (2255) [H24.4.1~H26.3.31]	
地域科学部		向井 貴彦 (3027) [H24.4.1~H26.3.31]	
医学系研究科・医学部		湊口 信也 (6520) [H24.4.1~H26.3.31]	
医学部附属病院		岩田 尚 (6323) [H24.4.1~H26.3.31]	
工学部		満倉 浩一 (2649) [H23.4.1~H25.3.31]	
応用生物科学部		長岡 利 (2931) [H24.4.1~H26.3.31]	
生命科学総合 研究支援セン ター	ゲノム研究分野 RI 管理室総括管理者	下澤 伸行 (3170)	下澤 伸行 (3170) 須賀 晴久 (3173) 高島 茂雄 (3174)
	嫌気性菌研究分野	渡邊 邦友 (6550)	渡邊 邦友 (6550) 田中香お里 (6552) 後藤 隆次 (6553)
	動物実験分野	二上 英樹 (6609)	二上 英樹 (6609) 平田 暁大 (6610)
	機器分析分野	近江 靖則 (2037)	近江 靖則 (2037) 鎌足 雄司 (6151) 犬塚 俊康 (6152)

学術国際部  
研究支援課

課長 山口 昇 (3347)  
 課長補佐 堤 富士夫 (3344)  
 研究施設係長 (併) ”  
 研究施設係 河田 諒也 (2014) (平成24年7月まで)  
 増田 優 (2014) (平成24年8月から)  
 杉山 純子 (9693)

- 6、地域教育と文化への貢献を目指し、公開講座や学校教育への積極的支援を進めて、科学知識の市民への啓蒙を図る。 【地域社会教育・文化への貢献】
- 7、研究基盤整備の要求に加え、利用者負担や学外利用、機器の再生・利用拡大を進め、効率的かつ戦略的な経営と管理運営を行う。 【自助努力・リユースも踏まえた戦略的運営】

## 【基本戦略】

### (1) 教育基本戦略：

- ・生命科学分野の講義・実習を通して全学的な教育支援を行う。
- ・教育目標達成に必要な基盤経費を確保し、配分する。
- ・教育環境を整備し、拡充する。
- ・各大学院のカリキュラムに添って、専門教育を積極的に協力・支援し、社会の要請に応える資質能力を持った学生を育てる。
- ・岐阜薬科大学との連合大学院の充実に積極的に参加するとともに、生命科学を含めた総合的な教育環境を提供する。

### (2) 研究基本戦略：

- ・目標を高くもち、世界レベルの研究を行う。
- ・研究の活性化を図り、世界トップレベルの研究を育てる。
- ・独自色のある研究を重視し、継続する。
- ・若手研究者を重視した組織構成に転換を図る。
- ・戦略的に特色ある研究を発展させる。
- ・岐阜薬科大学との共同研究、研究基盤の共同利用を進める。
- ・高い評価を受けている研究、将来性のある研究に資源を重点的に配分する。
- ・競争的環境にチャレンジする。
- ・科学研究費に全教員が申請し、より多く、より大型の研究費を獲得するよう務める。
- ・文部科学省以外のナショナルプロジェクトにも積極的に応募し、資金を獲得する。
- ・外部資金のための情報を収集し、推進に必要な最新の設備を整備して提供する。
- ・全学的研究支援センターとして整備する。
- ・戦略的・長期的・全学的見地から研究設備整備計画（マスタープラン）を立てる。

### (3) 社会貢献基本戦略：

- ・シーズの開発、ニーズに対応して研究資源を学外に解放し、産業に貢献する。
- ・生命科学分野の研究基盤施設として地域の産業の振興と発展に貢献する。
- ・教職員は社会貢献に積極的に参画し、広い視野から地域に貢献する。
- ・地域住民に生命科学知識についての啓蒙活動を行う。
- ・大学の講義や施設・設備を地域住民に開放し、地域文化に貢献する。
- ・地域住民の文化活動と生涯教育に参加する。
- ・各種の学校への生命科学分野の教育支援を行う。

### (4) 運営基本戦略：

- ・中期目標、中期計画を確実に実行する。
- ・評価を運営に生かす。
- ・透明、効率的、迅速な運営をする。
- ・全学的な研究水準の維持、向上に必要な基盤整備を要求するとともに、利用者負担等による自助努力を進め、効率的な経営を行う。
- ・既存の設備・機器の再生、ネットワーク等による利用拡大を進め、リユースを図る。
- ・外部資金を獲得するため大学としての戦略を図り、研究基盤施設を整備し支援する。
- ・環境に配慮した運営をする。

# センターの理念と目的

## 1. 概要

岐阜大学における生命科学研究を積極的に推進させるために、機器の共同利用の高効率化と高精度化により統合的な問題解決のための研究基盤を整備し、かつ人的・知的交流も活発化して学部や地域を越えたハブとしての機能を発揮できるセンターを目指す。

## 2. 研究のサポート

- (1) 先端的研究を支える大型機器の共同利用（導入・維持・更新）
- (2) 特別管理された実験室の共同利用

## 3. 教育のサポート

- (1) 実験技術の普及と教育研究のレベルアップ
- (2) 安全管理と教育訓練

## 4. 社会への貢献

- (1) 岐阜県の科学教育の支援と市民の啓蒙活動
- (2) 地域との連携とベンチャービジネスの育成

## 5. 運営について

- (1) センター活動の学内外への広報と利用・受託サービスの拡充
- (2) 共同プロジェクトによる大型研究費の導入と利用負担金・受託研究費の有効利用

# 岐阜大学生命科学総合研究支援センターの憲章、基本戦略

平成19年4月1日

## 【憲章】

岐阜大学および地域における生命科学の教育・研究基盤拠点として機能する

生命科学総合研究支援センターは岐阜大学の理念に基づき、学内外の共同利用施設として生命科学分野を含めた総合的な教育・研究基盤となる設備、機器を整備し、かつ人的・知的交流も活発化して学部や学内外の枠を越えた「地域の知の拠点」としての機能を目指す。

- 1、全学を対象に、生命科学を含めた総合的な専門知識、技術を習得し、安全管理、教育訓練を通じて高度な倫理観を身につけた人材を育成する。【生命科学・安全教育】
- 2、大学における高度な教育・研究水準を維持するため、生命科学の研究基盤を積極的に整備し、全学的な利用を推進する。【研究基盤整備】
- 3、生命科学を軸に学部を超えた研究の融合、共同研究の展開を図り、競争的研究資金の獲得を目指す。【全学的共同研究の推進】
- 4、大学院連合に積極的に参加し、地域の特性を活かした独創的研究分野を開拓し、質の高い研究を推進する。【大学院連合による先端教育・研究の推進】
- 5、地域における生命科学分野の教育、研究基盤施設として地域科学産業の振興に貢献し、研究資源・大型設備の学外への解放、共同・受託研究の展開等、産官学の融合を積極的に進める。【地域の知の拠点形成】

## 生命科学総合研究支援センターとの共存・共栄を目指して



連合創薬医療情報研究科長 紀ノ定 保臣

連合創薬医療情報研究科は平成19年4月に開設された博士課程（後期3年）のみの連合大学院である。岐阜大学敷地内に岐阜薬科大学の新校舎が設置され、医学・工学・農学・獣医学及び薬学分野の研究者と学生が同一キャンパスに集結したことを契機に、連合創薬医療情報研究科は個性豊かで学際的な連携研究を展開する環境の充実と研究者交流を進めてきた。また、独立行政法人医薬品医療機器総合機構（PMDA）との連携大学院協定を通して、医療機器および医薬品の両分野においてレギュラトリエンジニアを教育・研究・実践する国内で唯一の研究科となったことより、次世代医療イノベーションの推進拠点となるべく、その体制整備を進めている。

生命科学総合研究支援センターは、幅広い嫌気性の菌種を取り扱うノウハウを持つ国内唯一のセンターである。嫌気性菌はヒトと動物の常在細菌叢の主体であり、環境においては物質サイクルを支える一環として欠かせない存在である。近年メタゲノム解析の拡がりとともに、ヒトにおける常在細菌叢の菌叢解析が始まっており、菌叢を把握することがヒトの健康維持および感染症における病態解析の鍵となる事は自明である。また、菌叢解析のデータを有機的な医療情報として活かすためには、ゲノム解析の能力とともにその実体である細菌を個としても群としても取り扱い健康への影響を解析する能力が必要であり、生命科学総合研究支援センターにおけるこのような研究の成果に多くの期待が集まっている。同様に、その研究成果は生命科学総合研究支援センターをユニークな組織として特徴付けているだけでなく、連合創薬医療情報研究科が目指している健康科学や先制医療科学、創薬・育薬科学を推進するパートナー組織ともなっている。

今後の生命科学や医学・医療の発展にはビッグ・データを対象としたコンピュータサイエンスやバイオインフォマティクスの活用が不可欠である。創薬を効率的に実施するためには論理的創薬技術を一層発展させる必要がある。一方、このような最先端技術を効果的に活用するためには、膨大な基礎研究成果の蓄積が必須であり、今後の生命科学総合研究支援センターの活躍と機能の拡大に大きな期待を寄せている。

岐阜大学が次世代医療イノベーションの推進拠点となるために、連合創薬医療情報研究科は生命科学総合研究支援センターとの共存・共栄を目指し、同じ夢を追いかけたいと希望している。

## 遺伝子組み換え植物と農業



応用生物科学部長 福井 博一

ISAAA（国際アグリバイオ事業団）の報告によると、2012年の世界の遺伝子組み換え作物の栽培面積は、前年の1億6,000万 ha から1,030万 ha 増加して1億7,030万 ha に達し、日本の耕地面積456万 ha の37倍以上に相当しています。栽培されている作物は、ダイズ、トウモロコシ、ワタの順で、その多くがラウンドアップレディーと呼ばれる除草剤耐性の遺伝子組み換え作物です。

日本も2009年から遺伝子組み換え作物生産国となっていますが、スーパーマーケットで納豆を購入すると、成分表示欄には「丸大豆（国産）（遺伝子組み換えでない）」との表示が行われており、いまだに遺伝子組み換え作物が消費者に受け入れられていないことが判ります。それでは、日本で栽培されている遺伝子組み換え作物には何があるのでしょうか。

それはサントリーが開発した青いバラ“APPLAUSE”（アプローズ）です。そして、遺伝子組み換えの紫色のカーネーション“Moondust”（ムーンダスト）は、2012年には200万本がコロンビアから輸入されて流通販売し、母の日の最も人気の高い定番商品となっています。

納豆の大豆と、青いバラ“APPLAUSE”やカーネーション“Moondust”に対する消費者の対応の違いは何故生じているのでしょうか。前者が食品で、後者が切り花で食品ではないという単純な理由だけではありません。”APPLAUSE”や“Moondust”は遺伝子組み換え植物であっても、消費者にとって十分なメリットがあるからこそ受け入れられており、納豆の大豆は遺伝子組み換えであることによる消費者メリットがないからと考えます。

分子生物学を研究しておられる方々と話していると、「遺伝子組み換えによって〇〇という特性が付与され、世界の農業を変えられる」という夢の話が聞かれますが、実際にはそのような夢が現実になることはないと思っています。私は応用生物科学部の教員で、園芸学という応用科学を専門としています。純粋に基礎生物学を研究するにあたって遺伝子組み換え技術は極めて有効な武器となることは充分理解していますが、産業としての園芸産業を支える園芸学にあっては、遺伝子組み換え作物は極めて微妙な研究対象です。

分子生物学分野の研究は日進月歩で、世界という土俵の中で戦っていくことを余儀なくされ、ややもすると「研究目的は後からついてくる」といった考えに陥り、研究のための研究をする事態に陥ってしまいます。競争の中で優位に立つことは興奮をおぼえることであり、大変楽しいものです。しかし、応用科学、なかでも農業という産業を支援する科学という立場を考える時、研究の目的やその立脚点に常に立ち返る姿勢が大切だと考えます。私自身もバラやキクを材料として遺伝子解析を行っていますが、その本来の研究目的を決して忘れることなく、園芸学研究を進めていかなければならないと考えています。

生命科学総合研究支援センターは岐阜大学における分子生物学研究には不可欠な研究支援施設として発展してきていますが、本来の研究支援という意味についても常に問い続ける施設であって欲しいと願っています。

# 生命科学総合研究支援センター各分野における重点的活動項目



生命科学総合研究支援センター長 下澤 伸行

生命科学総合研究支援センターはそれぞれ出自の異なる4つの分野とRI施設が、学内における生命科学を中心とした研究基盤を共同利用できる施設として発足して10年が過ぎました。この間に大学運営費交付金の削減、法令の厳格な遵守が求められる中、大学に対しては国民の健康、幸福に繋がる成果の輩出が大きな期待とともに求められています。

センターとしては研究基盤の共同利用施設として出来るだけ最新の解析機器を導入して学内に提供し、研究基盤による研究水準の格差は少しでも解消して、より多くの学内研究者の成果輩出に繋げて頂きたいと考えています。

その中で、25年度は各分野が独自性を保ちながらセンター全体での全学研究支援施設として機動性を持った運営を図るための組織改革を進めるとともに、研究基盤の更なる整備と総合実験棟（仮称）新築移転事業を推進する予定です。

引き続き、センターの運営にもご理解頂き各分野を活用して、ともに岐阜の地に生命科学分野の知の拠点形成づくりを目指して参りたいと存じますので、宜しくお願い致します。

以上を踏まえ、今年度の各分野における重点的な活動項目を下記に列挙します。

## 【ゲノム研究分野】

- ① DNA シークエンス受託サービス拡大による学内ゲノム関連研究の推進
- ② 学内バイオインフォマティクス環境基盤の整備
- ③ 自動細胞解析分取システムの設置および稼働

## 【嫌気性菌研究分野】

- ① 微生物分類同定用 MALDI-TOF/MS の設置および稼働
- ② 学内外の菌株同定依頼への対応
- ③ 収集菌株の詳細同定、微生物資源コレクションとして整理、登録

## 【RI 管理室】

- ① 法令を遵守した利用と利用者の安全確保のための教育訓練の実施
- ② 利用者の RI 実験サポートのための実験機器・実験室環境の向上
- ③ 両施設におけるゲルマニウム検出器による自然放射線解析システムの活用

## 【動物実験分野】

- ① 関連法令を遵守した運営と利用者への啓発
- ② 岐阜薬科大学による利用拡大
- ③ マウス用飼育ラックの導入

## 【機器分析分野】

- ① 総合実験棟（仮称）の設計、移転計画の策定、推進
- ② 医学施設大型機器・設備の利用率向上
- ③ 研究基盤の整備提供、講習会の開催



# 生命科学総合研究支援センター年報第10号

## 目 次

生命科学総合研究支援センター各分野における重点的活動項目 ……	
生命科学総合研究支援センター長 下澤伸行	1
遺伝子組み換え植物と農業 ……	2
応用生物科学部長 福井博一	
生命科学総合研究支援センターとの共存・共栄を目指して ……	
連合創薬医療情報研究科長 紀ノ定保臣	3
センターの理念と目的 ……	4
センターの憲章、基本戦略 ……	4
センター組織図 ……	6
センター沿革 ……	8
センター各分野所在地図 ……	9
平成24年度活動状況報告 ……	10
平成24年度支援状況 ……	11
平成24年度岐阜大学公開講座 ……	12
センター規程・運営委員会細則・教授会細則 ……	13
分野ごとの報告	
●ゲノム研究分野 ……	17
●放射性同位元素管理室（柳戸施設・医学施設） ……	49
●嫌気性菌研究分野 ……	65
●動物実験分野 ……	69
●機器分析分野 ……	99
編集後記 ……	174